

(1) 図書館の配置

- 人口で比較すると、中野区は区立図書館数が 23 区でも下位となり、過剰な配置とは言えない。
  - 東中野地域、上鷲宮地域など、図書館サービス不存地域もあり、隣接自治体の図書館等が利用されている。
  - 不存地域への図書館設置が困難であれば、貸出・返却のポイントの運用も視野に入れるべきである。
- 
- ◇ 図書の受け渡しのポイントは多くていいし、郵便局やコンビニでの受取等、それくらい身近なところで借りられたらいいと思う。
  - ◇ 中学校区に一つの図書館・図書ポイントがあると良いと思う。区民活動センターや中野区新庁舎なども活用できないか。
  - ◇ 駅に貸出・返却のポイントを設置してほしい。
  - ◇ 区民活動センターでの貸出・返却は若い人に利用してもらえる。だが、区民活動センターが帰り道に無いなどといったこともあるので、駅に予約本受取ボックスのようなものあれば、本を借りやすくなると思う。
  - ◇ 15 もある区民活動センターで図書の貸し借りができないか。
  - ◇ 返すのが面倒だと感じる。区民活動センターに返却ポストがほしい。
  - ◇ 各区民活動センターを貸出・返却のポイントとすることは、有効だと思う。
- 
- ◆ 東中野エリアは本町図書館、東中野図書館が閉館され空白地となっており、上鷲宮や中野駅西側も同様である。
  - ◆ 空白地域の東中野近辺に住んでいる人は中央図書館まで仕方なく行っている。サービスポイントは多く設置した方がいいと思う。
  - ◆ 上鷲宮地域は、ずっと図書館がなく、練馬区の貫井図書館、杉並区の下井草図書館を利用している。両図書館とも使い勝手がよく、多くの人が利用しているので、本を読みたい人は地域にたくさんいると考えている。
  - ◆ 上鷲宮地域センターには図書スペースがあり、年間 5 万円の経費で運営されている。予約制度はないが、本の回転率が高く、有益なものとなっている。
- 
- ◇ 鷲宮図書館は、薄暗く、閲覧席も少なく、本の回転も速くない。そのため、練馬区の貫井図書館に行ってしまう。何か対策を考えてほしい。
  - ◇ 資料最後の半径 1 キロの図から見ると、鷲宮地区は図書館があることになるが、現状をみるとそう言ってよいのか。他と同質のサービスを受けているとは言えない。
  - ◇ 図書館配置については、面積比で 10 位、人口比で 17 位とのことだが、順位の上昇のために学校内に分室を作るとするのは本末転倒だと思う。
  - ◇ 半径 1 キロのところに中野区が図書館を設けるべきなのか。近隣区と連携協定を結ぶことで多くの区民が使える。全区で共通の図書カードもいいと思う。
  - ◇ 近隣区等俯瞰的に見て施設配置を考えるのは重要な視点だと思う。自治体間を超えて考えていく、それくらい柔軟な施設配置は有効だと思う。

## (2) 図書館の施設

- 施設の明るさや様々な事業・機能の充実などにも配慮して、「行きたい」と思える施設づくりが大切ではないか。
- 図書館単体の整備もあるが、他施設・機能との複合的な整備により、より魅力的になるのではないか。
- 図書館には、子どもたちの居場所としての役割もあり、個人での学習だけでは無く、複数人での学習・ミーティングが出来るよう配慮が必要ではないか。

- ◇ 図書館はまず場所としての魅力があると思う。この検討会に参加した理由としては、本が好きだから。子どもと一緒に本に関連した施設を回っている。民間の施設も充実してきているところもある。しかし、公共の図書館だから、民間とは違う誰でも使える居場所となりうるところが図書館の魅力だと思う。
- ◇ 中野東図書館は電車賃をかけ、子どもとイベントに参加し、駅周辺でご飯をたべる、行ってみようと思える図書館だなと感じた。そういう生活に沿った使い方が出来るとうれしい。
- ◇ 通いたくなる図書館とはと知人に聞いたところ「明るくて綺麗」、そして「カフェがほしい」。カフェ目的で出かけ、ついでに図書館利用につながると良いと思う。
- ◇ 中野東図書館のようにお茶を飲める場があるといい。
- ◇ 中野区にも魅力的な図書館がほしいと思う。
- ◇ 中野区の図書館はどこも暗く感じる。入口が暗いとどうしても敬遠したくなる。まず入ってもらって、そこから始まるのではないか。
- ◆ 図書館の魅力は、蔵書の多さや利用者数が評価ポイントとなるが、複合施設における魅力もある。中野東図書館についても若い人は様々な活用している。
- ◆ 今までスポーツ施設と図書館等、今までにない施設同士の連携をすることが効果的なものもあるかもしれない。色々なことを一体的に検討していくべきだ。
- ◆ 角川武蔵野ミュージアムに行ったが、ここは博物館、美術館、カフェなどが複合化している施設になっていて、中野東図書館などと目指しているコンセプトは一緒と感じた。
- ◆ 練馬区の貫井図書館は、西武池袋線中村橋駅に近く、区立の美術館が併設されており、仕事帰り、買い物中に予約資料を受け取るなど、便利に利用している。杉並区立下井草図書館は商店街の外れの住宅地にあり、緑も多く楽しく感じられる。
- ◇ 小学生が一人でも行きやすい環境を作ってほしい。図書館は静寂なイメージがあるが、BGMや館員の声かけなど、子どもだけでも行きやすい雰囲気づくりが大切だと思う。
- ◇ 中学生・高校生の居場所がなく、鷺宮児童館も今年はあるが、今後は不明である。鷺宮・西中野の統合新校にキッズ・プラザができるときいている。
- ◇ 中央図書館は閲覧席が十分ではないので、改修の際には、中学生・高校生等がミーティング等もでき、楽しいと思える場としてほしい。
- ◇ 中野東図書館の7階の子どもフロアは、備品も含め一体感があり、非常によくできていると感じている。

- ◇ 自分の子どもも、勉強しやすいということで、中野東図書館を使っており、このような施設を増やすとともに、使い勝手の向上も図ってほしい。
- ◇ 鷺宮図書館は、エレベーターの利用が前提で、かなり使い勝手が悪い。中野東図書館も7階～9階と聞き心配したが、小学生なども普通にエレベーターを使っており、心配するまでもなかった。今後も、設備やサービスを充実させ、子どもたちが行きたいと思う図書館にしてほしい。
- ◇ 中野東図書館は閲覧席が多い、児童館の閉館、U18の廃止等の中、中学生・高校生の居場所として図書館は有効であると考えている。この狭い場所にこれだけの施設をよく作ったなという感想。
- ◆ ギャラリーなど展示スペースがあることで図書館にも寄っていく。
- ◆ 図書館は一度建てたら長く使うもので、先の将来を予想して、サービスにあった形を作っていくという視点を持って、設計など行ってほしい。
- ◆ 中野区で新たに図書館を作るときには、バリアフリーの要素と未来型の誰でも使える複合的な図書館にしてほしい。既存の図書館にも同様に組み込んでほしい。

### (3) 図書館のサービス

- 児童サービス
  - ⇒ 本の大切さを伝えることは図書館の役割である。
  - ⇒ 自習や仲間同士のミーティングができる場としての配慮や整備も必要である。
  - ⇒ マナーを守ることは前提だが、音や声に寛容でも良いのではないか。
- 高齢者サービス
  - ⇒ 高齢者向けのコーナーもあると良い。大活字本や DVD を並べたり、新聞や雑誌を安心してゆっくり読めるという場は必要。
  - ⇒ 読書に親しむイベント、本の紹介、映像 DVD (映画、観光地の紹介) などにも配慮してもらえると、高齢者の集会等で利用がしやすくなる。
- 障害者サービス
  - ⇒ 職員の対応や移動時の誘導等少しでも知識を持ってもらえると、安心して図書館を使える。
  - ⇒ 対面朗読室、朗読ボランティア、デイジー図書や再生機の充実を図ってほしい。
- その他(一般)サービス
  - ⇒ 蔵書や貸出などの図書館本来の役割をなおざりにせず、常に向上させていってほしい。
  - ⇒ 非来館者を視野に入れたサービス構築を意識するとともに、様々な利用者を誘うため、タッチポイントの増加に努めるべき。
  - ⇒ 図書館の存在もサービス内容も、利用者すら知らないという視点で、積極的かつ多様な情報発信を行う必要がある。
  - ⇒ 新しい情報技術などによる格差に配慮して、誰もが利用しやすいよう配慮してほしい。

- ◇ 本の大切さを伝えないといけない。本をめくる大切さ、読み聞かせなどで耳で直に声を聞くことも大切である。先週も令和小の子どもたちに読み聞かせたが、子どもたちも真剣に興味深く聞いている。紙の本を大切にすることも図書館の大切な役割。そういったことを伝えることも公共図書館の役目だと思う。本を読んでもらう喜びを大切にしたい。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、子どもへの貸出が多いと感じた。新しい学校に設置するとしているが、お話し会も増やしてほしい。そのためにはボランティアの育成ということもあるが、現実にはボランティアは皆知り合い状態となっており、ボランティアに依存しないことも必要。
- ◇ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で来館者が減少している。おはなし会にしても、以前は満員だったのが、3組までなどと制限がかかる。コロナ以前は、おはなし会の際にも子どもとふれあいがあったが、今は全く無くなっており、非常に残念に思っている。
- ◇ 小さいうちから、ちょっと図書館に行く、親が本を借りるのについて行く、そういうことを通して図書館に馴染み、その後、勉強の場として図書館を使う。そういうことも考えると、昔と違って、滞在型利用のできる図書館が望まれる。
- ◇ 貫井図書館や他の図書館は子どもの一時保育を行っていて、その間にお母さんが

- 本を選んだりできる。そういったことは中野区でもできないか。
- ◇ 中央図書館は閲覧席が十分ではないので、改修の際には、中学生・高校生等がミーティング等もでき、楽しいと思える場としてほしい。
  - ◇ カナダでは、図書館がホームワークセンターのような機能を持っている。大学生が小学生の宿題を手伝うなど図書館に関わる人を増やすことが有効だと思う。読書以外のタッチポイントも増やすと面白いのではと感じる。
  - ◇ 中野東中学校と中野東図書館は併設施設であり、放課後、本の貸出では立ち寄れるが、閲覧席等の利用は帰宅後となっており、自宅が近隣にないと図書サービスの利用が困難になる。
  - ◇ 小さい子どもが声を出すとたしなめられることは全国的な課題。
  - ◇ 日曜日の午前中は、子どもたちが騒いでも良い時間帯としている図書館もある。
  - ◇ 長野県の図書館では、静かにしたい人が「サイレントルーム」を利用するところもあり、フロアは気軽な利用がされている。
  - ◆ 高齢者の読書は健康の点からも重要だが、目が悪くなり、小さい活字がつかなくなる。大活字本もあるが、高齢者の読書という点では、読みやすさということも大切である。
  - ◆ YA 向けのコーナーがあるのなら高齢者向けのコーナーがあってもいいのではと感じる。大活字本や DVD を並べたり、新聞や雑誌を安心してゆっくり読めるという場は必要だと感じる。
  - ◆ 読書に親しむイベント、本の紹介、映像 DVD（映画、観光地の紹介）などにも配慮してもらえると、高齢者の集会等で利用がしやすくなる。
  - ◆ 在宅配送サービスはあるとのことだが、高齢者施設に入所している人に本を届けるサービスがあるといい。
  - ◇ 視覚障害者が図書館を利用する際に気持ちが良いなと思うときは、職員の対応や移動時の誘導等少しでも知識を持って対応してもらおう場合である。機会をもらって中央図書館でそういうレクチャーをさせてもらったが、他館でも進めてほしい。
  - ◇ 対面朗読室の充実も図ってほしい。1人でデージーを読んだりもあるが、朗読ボランティアの方に読んでもらうという時間があまり無い。朗読ボランティアを増やしてほしい。
  - ◇ デージー図書は中央図書館にもあるが、色々な読書困難者の方にも勧めたい。読書困難者である高齢者などにデージーフォーマットの音訳図書を活用できないか。聞きやすく、好きなときに好きなだけ聴ける。デージー再生機も高価なので、図書館で導入してほしい。
  - ◇ 高知県の図書館は眼科の病院にデージー資料を置いているところもある。それが視覚障害の方々の図書館利用にも繋がった。
  - ◆ 登録者が限定されており、現行利用者の使いやすさも大切だが、利用していない人に来てもらう図書館になる必要がある。
  - ◆ サービスは図書館内だけではなく、アウトリーチもあり、例えば高齢者への本の宅配、イベントの外部実施による周知の向上、電子書籍も図書館に「いかない」サービスの一つ。
  - ◆ 非来館型サービスである音楽などの配信サービスはやった方がいいと思う。
  - ◆ タッチポイントの多さが必要。思ってもみない活用の方法を発信していくべきだ。
  - ◆ 図書館を利用しない人への認知方法の拡大としては、本を使わない図書館といっ

た活用方法があるのではないか。カフェや一時保育、小田原で行っているぬいぐるみの図書館お泊まりなど、そこから図書館の利用に繋げていく。図書館に来ると色々な体験ができるというのを売りとするべきだと思う。

- ◆ 現代は情報ニーズが無い人はいないと思う。図書館に行くと Google の検索結果の先を調べられるといったようなレファレンスの有効性のアピールが必要ではないか。
- ◆ 図書館の利用方法を区報に掲載するのもいいのではないか。
- ◆ 日常的に図書館を利用していないと図書館の場所が分からないと感じる。住宅地にあったりすると分かりづらい。道路上に分かりやすい看板を設置するなどし、歩いていて目につくような工夫が必要ではないか？
- ◆ イベントなどの広報活動を活発にしてほしい。
- ◆ 今まで子どもの本を自分のカードで借りていたが、今日初めて証明書が無くても、子どものカードができることを知った。
- ◆ 中野区にゆかりがある著名人も巻き込んだ発信ができると、より多くの人の関心が引けると思う。
- ◆ SNS は若者向けで高齢者は疎い。それに図書館に興味が無い人は見ないので、どう届けていくか。図書館と高齢者を結びたいと考えている。
- ◆ 図書資料購入計経費は、残念の一言。
- ◆ 中野区の図書館は新刊本などが遅いので、隣接区との融通で満足度を上げられたらいいのではないか。
- ◆ 10 年後はデジタル技術が当たり前になっていて、社会全体がデジタル空間となっていると思う。その中で人によってスキル差が生じることを踏まえ、スキルや欲しい情報にたどり着くためのアドバイスをする場となってほしい。
- ◆ 今後の図書館サービスについては2つの視点あると思う。まず、図書館としての機能、蔵書の冊数、期間延長等にこたえるなどの基本的な機能や場所としての魅力。図書館に行ったら、電子書籍を読めるなど、そこに行かないと受けられないといったようなサービス。時代の変化で両者は融合していくと思う。
- ◆ 場所が身近で、素敵で、新しいことは良いことだが、図書館として何ができるかを考えることも大切で、単なる自習室だけではなく、新しい情報技術に触れるなどもあり得る。箱物の視点では無く、どんな機能を地域で果たせるかという視点からの検討も必要だと考えている。
- ◆ 自動貸出機など導入され、機械を通して利用するのもいいが、戸惑うこともあるので、相談しやすいように人が居てほしいなと思う。
- ◆ 南台図書館は古いが、特集コーナーも好きだし、そのコーナーが来館する動機にもなっている。司書さんの手作り感があり、今後は、司書さん自身や区民が自分の好きな本を紹介するコーナーに繋がると嬉しい。
- ◆ 個人的には読書会なども望ましいと思う。世代を超えて意見の共有ができるし、みんなが集まれ場所になれば良いと思う。
- ◆ 山口市などは、色々な街角に図書コーナーを設置し、内容も充実させている。
- ◆ 中野区内に大学は多くあると思うが、関わりが薄い大学との連携状況はどうか。
- ◆ 中野区は専門図書館が他自治体に比べて多い。例えば矯正図書館。誰でも利用できるがあまり知られていないのが現状。区立図書館以外の図書拠点とのコラボは面白いし、区立には無い専門書がある。お互い連携していけたらいいのではないか。

#### (4) 電子書籍

- 紙書籍と電子書籍のそれぞれの良さを活かし、いずれかの選択では無く、利用ニーズを踏まえ複合的に整備していくことが望ましい。
  - 導入・整備にあたっては、児童・生徒、高齢・障害のある方の利用を視野に進めていくことが必要である。
  - 具体的な利用方法の支援は必須として、情報の取り扱い方など、格差が生じないことが大切である。
- 
- ◇ 障害者の視点で見るとメリットが多いので、積極的に導入してほしい。また、区として独自のポリシーを持つことも魅力的だと思う。紙や電子を選ぶことがいいと思う。
  - ◇ デジタル図書や電子書籍が活発化している。読書バリアフリー法への対応、この検討会の目的でもあり、課題でもある。
  - ◇ 電子書籍のもう一つのメリットは、文字の拡大ができたり音声読み上げができることで、様々なニーズに対応でき、高齢者や障害者のメリットは大きい。
  - ◇ デジタル化している社会で電子書籍は避けて通れない。コンテンツが少ないとのことだが、現状出ているもののジャンルの把握をしてほしい。高齢者については、スマホを使って、事業に参加することなどもある。
  - ◇ 電子書籍が広まることは、読書の手段が多様化するという点で望ましい。視覚障害者だけではなく、高齢者にとっても紙の書籍の活字はつらいものがあると聞く。中野区報なども読めないという声もあり、音訳と電子書籍には今後とも期待している。
  - ◇ 一人一台パソコンの端末がある状態なので、公共図書館に電子書籍のサービスがあれば、児童・生徒の端末から利用できる。一般利用の他に、学校教育等と関連して考えていくことが必要。
  - ◇ 学校の朝読書では、既に紙の本の子どもと電子の本の子どもが一緒だったりする。
  - ◇ 子どもという視点で見ると、児童・生徒の端末の有効化という点では、公共図書館からのアプローチも不可欠である。例えば、図書館にあるデジタルアーカイブなども、存在を知らないから学校が利用しない場合もあるので発信していくことも大事。
  - ◇ 小中学生へのアンケートで、紙の方が読みやすい43%、電子の方が読みやすい34%とあり、選択できるようにすることが大切。
  - ◇ 選択肢を増やすことは大切。紙の本が読みづらい子どもも3%程度おり、電子書籍が使えることは朗報。ディスレクシア症候群といった紙だと読めない子どももいる。
  - ◇ 何も読まないより、電子書籍で読む方が良いようにも思える。それでも読書力はつき、その次に何を読むのかということになる。
  - ◇ 電子書籍を公共図書館で取り扱うメリットは、返却の必要がないことがある。また、資格勉強のための本は書き込みの問題などがあり、紙書籍の対応が困難であるが、電子書籍ではこの問題はない。このように、「紙か電子か」ではなく、紙だと提供しづらいものを電子で提供する。ジャンルごとの特質に着目して提供することが現実的である。
  - ◇ 電子のみのサービス体系ではなく、両者の良さを活用することが大切。また、認知度の向上、利用方法の周知等は不可欠で、人の集まる場所で利用体験会を実施することも考えられる。

- ◇ 現状では、出版物の 25%が電子書籍であり、とりわけ雑誌は電子側にシフトしている。
- ◇ 単に電子書籍を導入しただけでは貸出冊数は増加しない。電子書籍は、現在図書館を利用していない人を呼び込むサービスでもある。電子に第 1 巻があり、図書館に次巻以降がある、ビジネスマンが夜中にアクセスして使うことも考えられる。
- ◇ 長野県では、県単位で電子書籍が整備されており、各市町村も経費負担をしている。小さい自治体においては、自前整備より負担が軽減されるメリットがあるが、そのサービスから撤退した自治体では、当該サービスは受けられない。
- ◇ 電子書籍の導入は避けられないので、早期導入が望ましい。個人的には紙書籍は良いと思うが、忙しくて図書館に行けない、ちょっと読みたいときなど電子書籍は便利だと思う。自分の使ってきた絵本ナビなども試し読みができるが、最近は 1 回なら全部読めるというサービスもある。
- ◇ 電車ではスマホで読書、家ではのんびりと紙の読書などの使い分けもある。
- ◇ 中野区独自では無く、東京都に申し入れをするなどしたらどうか。朝読書にしても、文科省に一括ダウンロードサイトなどを作った方が便利。
- ◇ 電子書籍のコンテンツが少ないということならば、自治体ごとに得意なジャンルをつくるなども考えられないか。
- ◇ 電子書籍の規模が 1 万冊程度であれば、単独で整備するより複数区で整備するのがいいのではないか。大学図書館と連携し。区民に見られるかたちが魅力的じゃないか。デジタルアーカイブなどで美術館などの資料を図書館で見られることもいい。
- ◇ 現状では電子書籍は価格面も含め様々課題があるが、公立図書館は相互に連携し、新たなモデルを作ってほしいとも思う。本の汚損トラブルが無くなる等、少なからずメリットはあると考えている。
- ◆ 電子書籍は図書館の蔵書にならないということだが、やはり図書館の誇るべきは蔵書数ではないか、どれだけ特色のある本を持っているかが重要。
- ◆ 性急に進める必要があるのか。必要なら他自治体のサービスを利用するという考えもある。財源的なことも踏まえ、全部実施より、選択集中が必要。
- ◇ アマゾンで買う人と使わない人の格差が広がる中、図書館が学べる場となることが大切である。ガイド役が図書館という感じか。
- ◇ 電子書籍を導入したら、各館に説明係を置いてほしい。
- ◆ サービスは図書館内だけでは無く、アウトリーチもあり、例えば高齢者への本の宅配、イベントの外部実施による周知の向上、電子書籍も図書館に「いかない」サービスの一つ。
- ◆ 財政的な余裕と土地の余裕があれば、電子書籍も地域開放型学校図書館も進めていけば良い。
- ◆ 電子化のネックの一つに経費の問題がある。立川市では民間企業の寄付ということがあるが、1 社 200 万円で 3 社が参加していると聞いた。自治体の財源が基本となるがそのような形態もある。また、公共図書館で導入し、学校が利用する場合の経費の負担はどうするかなど、各自治体でも手探り状態である。
- ◆ 電子書籍については、区民のつながりや居場所などとならないともったいない。
- ◆ 電子図書館に、電子書籍サービス、デジタルアーカイブサービスが含まれており、デジタルアーカイブ（紙を電子化）＝電子書籍ではない。
- ◆ 電子書籍は、図書館が書籍のベンダーと契約しており、利用者はベンダーのサイトにアクセスしそこで借りる仕組みである。書籍には再販価格制度があるが、電子書



籍は対象外であり、図書館で利用する場合には高額となる。利用形態は、買い切り、期限・回数による利用などがあるが、基本的に図書館で所蔵するということではない。また、電子書籍とするかどうかは作家の判断もあり、人気作品が必ず配信されるわけではない。

- ◆ 電子書籍の導入のためには、情報の把握、業者対応等のできる専任の職員を置いて対応すべきだと思う、方針や導入時期等を明確にして進めていかないと、後手を踏んでしまうし、行政サービスのデジタル化も遅れているイメージとなる。判断や目利き、業者対応もする職員を置いて検討すべき。

## (5) 地域開放型学校図書館

- 身近に図書館があるという点、気軽に立ち寄れるという点では、小さい図書館も有効である。
- 小さい図書館である故の機能の限定とともに、小学校内に設置する必要があるか疑問がある。

- ◇ 美鳩ライブラリーについては、近くに出来たことにより返却が楽になり、借りやすくなったなどの声もあり、地域の人の流れが変わったという印象で、非常に有益な施設だと感じている。地域に住んでいても普段は学校に行くことはあまり無いが、地域の交流の場にもなっている。
- ◇ 「ライブラリー」という身近に貸出を受けられる場所があるのはありがたい。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、子どもが乳児の頃にみなみのライブラリーを使用したけど、通常の図書館より利用のハードルが低いと感じた。買い物後や砂場遊びの帰りに立ち寄り、本を借りなくとも、そこで本を読むなどの利用ができる。通常の図書館に比べて低コストなのであれば、いろいろなところに居場所があるのは良いことだと思う。
- ◇ みなみのライブラリーができてとてもうれしかった。近くにある図書館として役立っており、いつまでも存在してほしい。利用者が少ないようで残念だ。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、学校と複合化することは別としてアクセスポイント増加という面では有効。
- ◇ 放課後に学校図書館は閑散としているが、キッズプラザは勉強する場所もない状態であり、地域開放型学校図書館に小学生タイムなどを考えたらどうか。
- ◇ ライブラリーの使い勝手の悪さを改善してほしい、放課後に宿題をしたくても、他に人がいると使えない。放課後を小学生の時間にするなどの工夫がほしい。
- ◇ 自分の娘は、読書が嫌いだけど、みなみのライブラリーへ勉強にいったところ、いっぱい利用できるできなかった。館ごとの特性に応じて運用を行ってほしい。例えばライブラリーは小学校にあるので、小学生優先であってほしいと思う。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、蔵書が少ない。資料を見ると乳幼児が利用しやすいのは感じ取れる。
- ◆ 地域開放型学校図書館については、学校からから見ると、学校の敷地が削られるということ、教室を増やしたいのにとということになる。学校にもメリットが必要。小学校に設置するメリットは何か。学校図書館の貸出は3冊までで、読書家の子どもには、それ以上を分室で借りられるメリットはあるが、他には何かあるかを感じる。
- ◆ 地域開放型学校図書館は、小学校全校に整備することとなっている。中野の小学校は土地も狭いし、文科省の基準でも教室はより大きくする必要がある。桃園第二小学校などはそのための敷地がないので、区民活動センター内にも作れば良い。区内一律では無く、地域ごとの実状や要望によたらどうか。
- ◆ 統合新校に設置することで、もしかすると学校図書館は小さくなっているのかもしれないし、他のスペースも小さくなっているのかもしれない。地域の人にとって、設置したことが本当に良かったとならないといけないと思う。
- ◆ 財政的な余裕と土地の余裕があれば、電子書籍も地域開放型学校図書館も進めて

いけば良い。

- ◇ メリット云々もあるが、文科省の考えには、学校と社会教育施設の合築などということもあり、社会教育施設の側から見ると、地域開放型学校図書館も一つの選択肢ではある。
- ◇ 地域開放型学校図書館の目的は、図書館サービスのポイントとしての位置付けとともに、子どもの読書活動の推進、地域の子どもが就学前から小学校に出入りするということである。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、子どもへの貸出が多いと感じた。新しい学校に設置するとしているが、お話し会も増やしてほしい。そのためにはボランティアの育成ということもあるが、現実にはボランティアは皆知り合い状態となっており、ボランティアに依存しないことも必要。
- ◇ 地域開放型学校図書館についてはあまりイメージできていないが、どういうサービスを受けられるのか。視覚障害者なら誘導チャイムの有無、車椅子なら平坦なのか、トイレはどのようになっているのか。